



自然観察

No.136
2022.3月

目次

- 「えんがる瞰望岩」観察会実施報告2
- フィールドニュース4
- 2022 全道研修会のご案内8
- 2022 年度総会・講演会のご案内9
- 2022 年度総会議案 2021 年度事業報告9
- 2022 年度事業計画(案)11
- 「自然に遊ぶ～子供の頃の遊び」14
- 編集後記・連絡先16



「コハクチョウ」 蘭越町港町

「えんがる瞰望岩」 観察会実施報告

～湧別川沿いにそびえる遠軽町のシンボル瞰望岩の地質的な成り立ちを尋ねて～

遠軽町 相原繁喜

1. 実施日 2021年10月24日(日) 9:00～14:30 (集合8:45)
2. 行程 ①瞰望岩(頂上・麓)、②瞰望岩右麓露頭、③遠軽大橋下(湧別川左岸の瞰望岩基盤露頭)、④瀬戸瀬ダム(瞰望岩水冷破碎岩供給源露頭)、⑤社名淵川岸辺(河床炭化木、フミ川岸辺植物化石)、⑥見晴牧場丘陵地(熔結凝灰岩露頭)、⑦アイヌ民話「ブクサとトウレブのカムイ」読聞かせ(遠軽公園「ピリス」ハウス)
3. 参加者 14名(スタッフ3名含む) 一般参加11名(稚内市3名、紋別市1名、遠軽町4名、北見市1名、札幌市1名、恵庭市1名、スタッフ3名(遠軽町2名、阿寒町1名)の合計14名(20歳代2名、40歳代～2名、50歳代～2名、60歳代～2名、70歳代～5名、80歳代～1名)で天候にも恵まれ、無事実施完了。
4. 道民カレッジ受講参加 5名、講座単位数:4単位(環境・生活コース 登録03-k058)(稚内市2名、北見市1名、遠軽町2名)
5. 観察行程

(1)瞰望岩頂上登坂路入口:先住民の湧別アイヌにとって、瞰望岩はチャシ(砦)を設け「見晴らすところ、神に祈る儀式やお祭りをする場所」として活用されたこと。アイヌ語で見晴らすところを「インカルシ」と称し、遠軽町の町名にも由来することを紹介。

(2)頂上では、瞰望岩の「瞰^{かん}」という文字は俯瞰するなど、「鳥の目で地上や山々を見下ろす様に見ること」の意味があることを紹介し、先ずはゴツゴツとした頂上の岩肌や周辺の地形等を自由観察。次に、ゴツゴツした岩肌の理由について、熔岩のガラス成分が先に固結破碎して礫の縁取りを形成する急冷縁を紹介。急冷縁があることが、固結の際に水などに冷却された証拠となること。熔岩流が水などに接して冷却され、尤も激しく破碎した例(余市町フゴッペ海岸火砕流)を写真で示し、水冷破碎岩も含め、水と熔岩流の量比が約3:10の時に最も激しく破碎すること。また、完全に海底火山などで水中で溶岩が吹出した場合は枕状または依状溶岩になり、特に熔岩量10に対し、水量比が3~10位の時、瞰望岩のような拳大のゴツゴツした水冷破碎岩になることを紹介。



(3)次に瞰望岩の断面と基盤及び瞰望岩を形成した熔岩流の供給源地を見学。瞰望岩を側面から見ると、同じ岩肌の岩体が3~4段積み重なり、その境界に色合いの異なる薄い層が挟まっていることを見学後、地質図幅の報告を参考に形成の仕組みを紹介。続いて、瞰望岩は同じ供給源(火山)から時間をおいて少なくとも4回の熔岩流が水と接しながら流れ着いて堆積した先端であること。更に熔岩流が水に接した場所は現在の標高より低く、湾・湖沼などであったと考えられること。また、供給源へ続く本体はどのように崩壊・消失したのか。瞰望岩の地質に関して直接の解説書が無いので、現在入手可能な関連文献資料の知見に基づき、推定として、ガイド解釈の瞰望岩形成のしくみ「きっこうだったのではないだろうか、ストーリー」をフリップと地形モデル、槌を用いて次の①~⑤のように説明。

①その昔2つの巨大プレートが斜めに衝突する境界に位置した大地(現遠軽町)の横ずれや、更に日本海を形成した地球内部からの引張応力の仕組みと同様な大地を押し広げる作用が、当時紋別から上士幌にかけて働き、連続した断層を含む地溝帯が形成されたこと(その昔~地質図幅では1,300万年前)。②そこで、地溝帯正断層の沈降する部分が瞰望岩熔岩流の本体で、寒暖差の大きい気候時代を経て、沈水・凍結破碎を繰り返し受け、沈降した本体はオホーツク海方面に向けて崩壊・浸食されて流出したために、西側の堆積露頭に固着した熔岩流の先端部分だけが残り相対的に隆起、その後、プレート衝突に起因する圧力を受け続け、先

端部が更に隆起したことにより、現在の大地(消失本体下基盤)から見ると地上から78mの絶壁として観られること。③眺望岩本体を含めた大地を東西方向に押し上げた引張応力の証拠として、地質図で東方堆積地層の移動を示す断層のずれ(剪断)や遠軽～湧別地形ジオラマを提示して、湧別川を中心に東西に広がる地形を確認。④更に、この地溝帯形成のはじめと終わりの形成原因は不明な点が多いが、推定の1つとして、上昇した高温のマグマが遠軽大地をつくる大陸地殻に見合う均衡面下の地殻を溶融した。それに伴って重力と浮力の均衡関係が崩れ、大陸重力が大きくなって、均衡面の上の地殻が沈み込み、再びそれが溶融された。やがて遠軽大地の地殻が薄くなると共に均衡面下のマグマ体積容量が増して、周辺の地殻を水平方向に押し広げるようになり、特に千島・カムチャッカ海溝方向の大陸が相対重力の関係で多く押し広げられた。やがて薄く押し下がった地殻上に水が溜まり海や湖となった。⑤この薄くなった地溝帯の断層など、地殻重力が弱まったところに、柔らかいマントル内を上昇した高温マグマが地殻内を上昇し、噴火して火山活動が活発になった。眺望岩を形成した熔岩の供給もその1つであり、時代を同じくして形成された金鉱山や温泉が紋別から上士幌にかけて帯状に連なって所在していること(鴻之舞鉱山・沼の上鉱山・北の王鉱山・勢多地区金鉱床ほか)を紹介。

- (4) 遠軽・眺望岩の基盤を成す砂岩と泥岩の互層露頭を見学。眺望岩を形成した熔岩流の先端を受け止めた砂岩と泥岩露頭の岩場には、イワヨモギ(キク科)が生えていた。根元は木質で硬く半低木。羽状全裂の葉は、触れると蓬臭という比較的強い匂いがした。観察当日も葉は緑色を保っていた。普通海岸から山地の岩場に生えたとされているが、此処でも急斜面の岩場に生えて、木質化した茎の部分は垂れ下がり草本部は垂直に立ち上がって、叢生という状況であった。尚、生育環境で草になったり、木になったりすることもあると言うが、此処では半低木のものであった。北海道には自生しているが数は少ないようであること。



- (5) 眺望岩熔岩流の供給源～瀬戸瀬ダム北側の山体露頭を見学。太い柱状節理の岩体と細い柱状節理の岩体が隣り合わせに並び、更にその奥に方状節理のある岩体も観られた。太いものが玄武岩質、細いものと方状ブロックのものが安山岩質のものであった。地質図幅報告に基づき、眺望岩水冷破砕岩中の礫の岩質と年代が一致し、岩体の形状は固結環境によって異なるが、眺望岩を形成した供給源岩体であることを紹介。次に柱状節理の節理方向は冷却面に垂直であることや、通常六角形のものが多いが、温度勾配が大きく、短時間で急冷されるほど、角柱の角数が少なくなり、4角形や3角形になること、更に太さも細くなること。逆にゆっくりと冷却するほど、太さが太くなり、角数が増す傾向にあることをフリップで解説。

尚、事前採取した現地の細い柱状節理の角数は4角形で、サンプル切断面には急冷縁も見えたので紹介した。〈昼食休憩〉

- (6) 眺望岩の北西に位置する社名淵川の岸辺で、増水のため直接川には入らず、河床に埋まる炭化木をサンプルで紹介。眺望岩の形成と時代を略同じにする周辺の火山活動の火砕流や火山灰に埋もれた木材が炭化したこと、硬く材の繊維も観られることから、低地または谷間に押し流されて封印され、風化や分解されずに保存されてきたこと、その場で2つを打ち鳴らすと高い金属音がすること、また、紙に擦ると墨の跡は残らず傷がつくことを知らせ、石化し始めていることも紹介。

- (7) 眺望岩の西隣に位置する丘陵地(町営、見晴らし牧場)にて、火砕流堆積物としての溶結凝灰岩露頭を観察。社名淵周辺の炭化木や植物化石の観られた大地の上に堆積し、眺望岩を形成した時代の後の火山活動であること。また、眺望岩の麓に地続きであるが岩質が全く違うことで、眺望岩形成の供給源では無いことを確認。

最後に眼下に広がる遠軽の街並みや押し広げられたと思われる佐呂間の山々を形成する堆積岩地形を遠望観察。

6. 読聞かせ

アイヌ民話～ウレシバ物語「ブクサとトウレブのカムイ」を遠軽公園施設(サンビズハウス、展望岩裏手近く)で、関係サポーターの協力を得て、読聞かせ紹介(約10分間)。ブクサとは「ギョウジャンニク」、トウレブとは「オオウバユリ」のこと。展望岩には昔、湧別アイヌのチャシ(砦)があり、周辺の自然を活かしつつ利用するという、自然と調和・共存して生きる生き方が此処にも根付いていたと考えられる。オオウバユリ(トウレブ)は神からの恵みとして、開花するまでに長い年月を要するが、滋養力があり、特に冬場の食料として貴重であった。そのため、限りある自然資源を次の世代に繋がるよう、計画的に収穫・利用していたのである。地質観察会とは少々離れるが、オオウバユリは今も展望岩の周辺に生えており、展望岩を一つの拠り所として、地球の時間軸の中で生まれた自然と調和・共存して生きたアイヌ民族の精神はSDGsにも繋がると考え、アイヌ民話の読聞かせで紹介した。(使用図書：ウレシバ物語～アイヌ民族のく育て合う物語>を読み聞かせる～著者 富樫利一氏(アイヌ文化アドバイザー)、寿郎社出版)



フィールドニュース



FieldNews

ヒグマが間近な時代に

旭川市 山本牧

2021年はヒグマを間近に感じた年でした。札幌や旭川で市街地にヒグマが侵入し、人身事故の死傷者も全道で記録上最多の12人に達しました。ヒグマへの関心が高まる一方で、「怖い」「何か変だ」と感じる人もいますでしょう。

確かに人間とヒグマの間で変化が起きています。「距離感が変わった」というのでしょうか。30年ほど前まで、もっと人を恐れ、警戒していたはずのヒグマたちが、最近は脳天気なまでに人里に姿を現し、農作物を荒らしていきます。中にはコンクリートで固められた川伝いに、都市部まで入り込むクマもいます。それぞれは偶発的な出来事ですが、背景にはヒトとヒグマの関係の変化があります。

北海道のヒグマの捕獲数や推定生息数を見ると、1990年が大きな曲がり角です。この年、春グマ駆除の制度が廃止されました。これは、「ヒグマは害獣だから北海道にいない」として、見通しがよく、足跡を追いやすい残雪期に獲れるだけ獲る、という奨励金付きの一種の絶滅政策でした。

1980年代にヒグマの数が激減し、地域によっては絶滅の危機まで起きて、ようやくこの政策は廃止されました。その後、ヒグマに対する人間の圧力は急減し、農村部の過疎高齢化、ハンターの減少などもあって、今度はヒグマにとって人間が少しも怖い存在ではなくなってしまいました。この30年間でおよそ2倍、2021年推定で約13000頭となっています。



漁業倉庫をのぞき込む子グマと母グマ。少しずつ警戒心が薄れてゆく

単純に、数が増えたから問題が多発している、というわけではありません。ヒグマの行動自体も変化しています。

子グマは1年半ほど母グマに育てられますが、母グマが人間を怖れず、畑荒らしをしたりすると、子グマはそれを学習します。やがて独立すると、無警戒で好奇心だけ強い行動をとり、時には人里近くでトラブルを起こします。箱ワナに入って命を落とすのも、若いクマが目立ちます。

こう見ると、ヒグマの都市部侵入はごく一部の現象であって、根本には畑荒らしを常習とし、ヒ

トへの警戒心を失ったヒグマたちの増加があります。野外での人身事故多発も、その延長です。今までいなかったはずの場所で、ヒグマと出くわすケースも増えています。

これまで緩衝地帯の役割を果たしていた農山村が活力を喪い、ヒグマを防ぐ人間社会の防御力が弱まっている現在、ヒトとヒグマの緊張感を維持するには、専門的な知識と行政的な組織力が必要です。駆除だけに頼って解決できる問題ではありません。

エゾシカの食害や外来種アライグマの増加なども、同じような要因でしょう。1990年代までは森林伐採や植林地の増加、農地拡大などで、人間が野生動物を圧迫する状況が続きました。しかし、この30年間、北海道全体で見ると、森林面積はそれほど変わらず、大規模伐採や大型開発は減りました。

「人間に追われたかわいそうなクマが里に出てくる」という見方は正確ではありません。彼らは人間社会の弱点を見抜き、より安全なすみか、楽しんでうまい畑作物を求めて人前に出てきています。高い学習能力を活かした新しい生き方です。

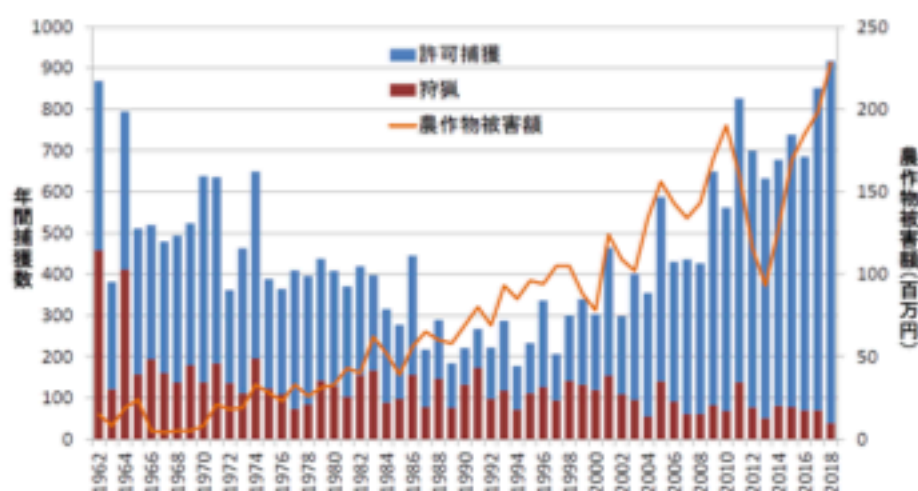
ヒグマにとって人間は、幸い普通は餌でも敵でもなく、単なる邪魔者です。人身事故が最多と書きましたが、意図的な殺人や傷害事件ではなく、交通事故にも似た、偶発的な事故です。ですから、リスクを考え、より安全な対策や行動をとることで、発生を減らすことは可能です。

人身事故防止を考えると、市街地と野外とでは発生の状況も防ぎ方も全く異なります。安全であるべき人間の生活空間（住宅地）では、ゴミ出しに行くときに後ろのヒグマに気をつけるなんて無理です。互いの行動空間を分けるゾーニングという考え方を取り入れ、ヒトの生活空間にはクマを入れない。その代わりに、クマの生息空間に入るときは、ヒトの側が用心する。そういう仕分けが必要でしょう。

この2つだけに分離はできないので、ヒグマの会では緩衝エリアを含め4つのゾーンを提案しています。①排除地域（人間が暮らすを市街地・住宅地）②防除地域（農地）③緩衝地域（人里近い森林）④コア生息地域（ヒグマが安全に暮らす奥山）。

ヒグマの現状

農業被害増加



ヒグマによる農業被害金額及び捕獲数の推移, 北海道, 1962~2018年, (北海道自然環境係資料より)

捕獲数と農業被害の変遷 (1962~2018) 1980年代に生息数が減って捕獲数が激減し、1990年に上昇に転じた。近頃は年間900頭前後を捕獲しているが農業被害は減っていない

都市部にクマを入れないというと、すぐ河川敷の伐採や電気柵設置の話になりますが、実はそれは対処療法です。畑荒らしの常習化は、ヒグマへの餌付けと同じ意味であり、農家個々の経済損失にとどまらず、地域全体のリスクを増していることに気づくべきです。要は地域防災の考え方です。

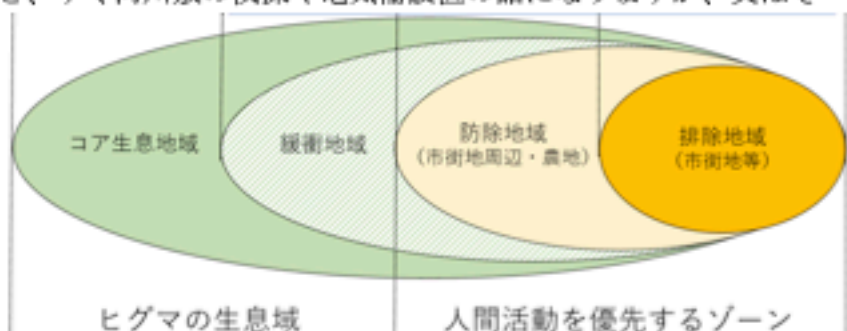
いっぽう、ヒグマの生息地である野外に出かけるときは、人間の方が十分な心構えと装備が

必要です。札幌西部の住宅地に近い森林で、40頭近いヒグマが確認されています。真冬も冬眠をしないクマもたまにいます。

人に気づけば避けるのが普通ですが、エゾシカを食べているときや親子連れは、攻撃してくることがあります。大声をあげて走る行為は、攻撃を誘発します。まずは「急な遭遇」を避けるために鈴などの鳴りものを用意し、撃退スプレーも腰につけましょう。複数の人が固まっているところを攻撃した例はほとんどありません。

観察会で森の奥に入るときは、事前に装備を確かめ、「クマに出くわしても、逃げない、騒がない、集まろう」と互いに確認し、心の準備をしましょう。

「野外で個人が気をつける」ことと、「社会全体でヒグマに備える」という両方が求められている時代です。



ゾーニングの概念図。ヒトとヒグマのそれぞれの空間を確保し、中間に緩衝地域を設ける



クマ撃退スプレー。すぐ使えるようホルダーに入れて腰に装着、たまに試し噴射をして使い方を確認しておく

十勝平野に残された小さな森 ピンニの森

帯広市 中村修一

私が住む十勝地方は、畑作を中心とした農業が基幹産業です。北海道では石狩平野に次ぐ面積を持つ十勝平野は、かつて大森林に覆われていました。しかしわずか100年ほどの間にその殆どが農耕地として開拓され、残されたのは4%ほどに過ぎないと言われていています。現在の十勝平野は、カラマツ防風林の列に囲まれた耕作地がどこまでも広がる農村風景です。北海道の他地域に比べても、もともとあった自然がほとんど残っていない開発されつくした地域といえるでしょう。

ピンニの森

そんな十勝平野にも僅かではありますが、大海の中の小島のように小さな面積の森が残っています。十勝平野の原風景をかりうじて残しているこのような森は「孤立林」と呼ばれています。縁があって2002年、面積2haの孤立林に出会い、その一部分を取得することができました。ここに自宅を建て、以来「ピンニの森」と名付けて自然観察のフィールドにしています。

この森は意図して残されたものではありません。実は1970年代高度成長期の「原野商法」で一旦更地にされ、切り売りされたのです。し



ピンニの森

かし土地を購入した人たちはいずれも本州在住の人たちで、その後ほとんど利用されることもなく放置され、その結果 50 年の歳月を経て自然林が再生し今に至っています。原野商法が結果的に森を守ることになったのです。

現在の森は面積の 9 割が広葉樹を主体とした二次林で、ヤチダモ、ハルニレ、ハンノキが優先する湿性林です。ピンニとはアイヌ語でヤチダモのことで、森の一番の大木、ヤチダモの雌株が毎年たくさんのタネを散布するためか、この森にはヤチダモの幼樹が大変多いところから名付けました。シラカバやケヤマハンノキなどパイオニアがまだ森の中心部にも残っている若い森です。木々が芽吹きはじめる前には、林床にオオバナノエンレイソウが一面に咲き、見事な群落を作ります。他地域には見られない、十勝平野独特の景観です。



オオバナノエンレイソウの群落

クラウドファンディングによる土地の取得

もともと最初に取得できたのは、森の面積の約 3 分の 1 の土地でした。あと 3 分の 1 は静岡の医師所有で、森林の保護に理解をいただき現状のまま維持していただいています。残りの 3 分の 1 は所有者不明という状況でした。ところが 2016 年、不動産業者から不明部分の多くを売りに出すことができるようになったので購入しないかとの話が来ました。森の 4 分の 1 ほどの面積ですが、農地などに転用されて面積が減少すれば、大きな影響を及ぼすのは間違いありません。森林面積は生物多様性と密接な関係があり、ただでさえ小さな森には大きなダメージになるでしょう。

購入を検討することにしましたが、坪単価は安価でも相当の面積なので、140 万円ほどの価格になります。個人では負担が大きいので、クラウドファンディングを実施し資金を募ることにしました。2017 年の 2 月から 4 月まで実施し、多くの方々にご協力をいただいた結果、120 万円ほどの資金を集め土地を購入することができました。

今後の森作り

まわりを畑に囲まれたピンニの森ですが、鳥や虫などの生き物に水や食料を提供し、身を潜める場所として、また冬季の越冬場所として機能します。周りの畑にとっても害虫を食べる鳥や虫たちの棲家として、大発生を抑制し、調整する役割を果たすことでしょうか。新たに入手した土地の西端は草原でしたが、たくさんの方々の協力を得て植林を進めています。下草刈りなど適正な管理をして、少しでも豊かな森になるように面積を広げていく予定です。また現代では市街地に住む人々も農村で暮らす人々も、大人も子ども森林に触れる機会が減少していると言われていす。この森が気軽に遊びに来ることができ様々な生物と出会える場所になるように観察会やレクレーションの場として提供し、またそのための整備も進めているところです。

昔日の大森林を再生するのは、現実として難しいことでしょうか。しかし当時の面影を残した森林として保全し、様々な形で活用していくことも意味のあることだと思っています。自然観察指導員の皆さん、一度ピンニの森に遊びに来ませんか！

詳しくは「どんぐりとやまねこ」のホームページをご覧ください

<https://tikisani8.wixsite.com/website>



2022

6/10(金) 8:45

～

6/12(日) 16:15

集散場所：JR白老駅

研修観察場所：

ポロト自然休養林(白老)

大沼国定公園(七飯)

土橋自然観察教育林(厚沢部)

歌オブナ林(黒松内)



北海道自然観察協議会主催

2022全道研修会のご案内

「原始性に富んだポロトの森、駒ヶ岳を望む湖沼の自然、歴史あるヒバやブナの森を尋ねる研修会」～よかったら是非ご参加下さい。



募集定員：先着 12名

(最少開催：5名)

詳細(持ち物・確定参加費等)は
5/18(水)迄に参加者へ連絡

コロナ禍・荒天時実施判断

5月27日(金)～6月6日(月)

移動交通:中型車or普通車

参加費：(暫定額)

約¥ 10,000～16,000円程



様々な動植物が息づき、癒やし感のあるポロトの森。駒ヶ岳の麓に広がる湿地大沼が育む大自然。

そして、ヒノキアスナロ(ヒバ)やブナの自生北限地帯の歴史ある独特な自然に触れてみませんか。



○参加申込先 北海道自然観察協議会研修部

FAX 0158-46-3921 携帯090・3897・5392

E-mail kinetics58@gmail.com

報告：名前、住所、連絡先(本人・家族)、メールアドレス(添付文書受信可能な)、年齢

○募集期間 2022年 3月28日(月)～4月15日(金)

2022 年度総会・講演会のご案内

- 総会 日時 2022 年 4 月 3 日（日）13:00～14:30
場所 札幌エルプラザ環境研修室 1・2 （札幌市中央区北 8 西 3）
- 講演会 総会終了後引き続きエルプラザ環境研修室にて
15:00～16:45
演題 「里に近づくヒグマ～その理由と対策～」
講師 山本 牧氏 （NPO 法人 もりねっと北海道代表）

今回の総会及び講演会はコロナ禍の状況を鑑み、事前申し込みが必要となります。参加希望の会員は、メールまたは電話にて 3 月末日までに事務局佐藤にご連絡ください。（連絡先は会報最終ページ掲載）尚、講演会の定員は 40 名を予定していますので、定員になり次第締め切りとさせていただきます。

コロナの感染拡大により開催が困難になった場合は、次のように対応します。

- 1 中止のお知らせはホームページにて周知するとともに、事前申し込み者には、メール等で個別に連絡をすることにします。
- 2 総会についてはオンラインに切り替えて実施することも考えておりますので、その場合の参加方法等の連絡はメールで事前申し込み者に送信します。
- 3 オンラインに参加できなかった会員で、会報掲載の総会議案について意見・要望がある場合は事務局まで連絡して下さい。
- 4 寄せられた意見や要望については、議事録として記録するとともに、会の活動の充実のために理事会等で検討します。

2022 年度 総会議案

2021 年度事業報告

1 観察部所管事項

(1) 観察会について

2021 年度の一般観察会は、親子夏休み自然観察会を除き、39 開催が予定され、23 開催の中止を除き現在（2/5）まで 14 開催が無事終了した。このうち報告書未着および報告書不備の 1 開催を除く 13 開催について集計、概要は下記の通り。

一般参加者数延べ 134 人、指導員参加者数延べ 49 人。一般参加者の年代別では、年代記載者 134 人中、70 代以上 82 人、60 代が 24 人、50 代 6 人、40 代以下 22 人となっている。最終結果は 6 月発行予定の会報に掲載する。なお、各観察会の実施状況は会報・ホームページに掲載中である。

指導員のための観察会は、みどりの日に行われた「道庁・北大植物園観察会」の下見を活用して「自然観察会予定表 2021」の中で呼びかけたが、コロナ感染症の拡大のため、昨年に続き観察会自体が中止となった。

(2) 会計について

例年通り良好に観察会参加費は入金されている。詳細は事務局会計報告を参照のこと。

(3) 傷害保険について

今年度観察会において、事故及び怪我の報告はなく、保険の適用は無かった。

2 研修部所管事項

(1) 地方ブロック研修会について

道央第 2 ブロック研修会は、9 月 11 日（土）「ポロト湖休養林自然観察会&国立アイヌ民族博物館見学会」で予定されていたが、コロナ禍感染拡大のため中止とした。

(2) フォローアップ研修会について

9 月 25 日（土）に「ゼロから始める身近な観察会」として余市町で予定していたが、NACS-J と共催の自然観察指導員講習会がコロナ感染症拡大のため中止となったのを受けて、この講習会が受講者を対象とした研修会の企画だったためにやむなく中止とした。

3 編集部所管事項

(1) 会報発行について

2021 年度発行の会報「自然観察」は、134 号 (6/15)、135 号 (10/15)、136 号 (3/15) 計 3 回。また、全国 21 か所の自然観察指導員連絡会及び関係団体へ会報を送付し、交流を行っている。編集部では会報発行毎に 1 回開催し、計 3 回行った。

尚、昨年度に引き続きコロナ禍による観察会の中止が相次ぎ、原稿の集まりに支障が出たため、内容の工夫を図るなどした。

(2) ホームページ (HP) の運営について

HP のアドレスは <http://www-noc.hokkaido.org/>

(3) オンラインの導入について

コロナ禍での理事会の開催にあたって、特に遠方の理事の参加を可能にするために、10 月の理事会から ZOOM を活用してオンラインでの実施を試みた。途中で途切れることもあったが何とか開通でき安堵している。今後、オンラインの参加者の感想を聞き、事務局と連携しながら運営の改善・充実に努めたい。

4 実行委員会事項

(1) 夏休み親子自然観察会 (会報 No. 135 に活動の様子を掲載済み)

日 時 8 月 1 日 (日) 10:00~15:00

場 所 札幌市北方自然教育園

内 容 森と水辺の自然観察と生き物採集・スケッチ

参加者 3 家族 8 人 (子ども 4 人、大人 4 人) ※指導員 4 人

5 事務局所管事項

(1) 事務局長

① 各種会議等の円滑な運営

i 理事会について

6 月紙面 (コロナ禍のため)、8 月紙面 (コロナ禍のため)、10/9 (土) オンライン参加も導入、12/11 (土)、2 月紙面&オンライン (コロナ禍のため) 4/3 (日、予定)、紙面による理事会 3 回を含め 6 回開催。

理事会の前には会長、副会長、事務局の 4 名で事前の打ち合わせ (三役会議) を行い、理事会の円滑な運営に努めた。

ii 総会について (会報 No. 134 に会計決算・予算及び議事録を掲載済み)

iii 講演会について

昨年に引き続き、山本牧氏 (NPO 法人もりねっと北海道代表/本協議会理事) に講演を依頼し快諾を受けていたが、コロナ禍の状況から実施は無理と判断し中止とした。

② 入退会者の受付と会員名簿の整理

退会者が目立った。退会の理由は高齢や病気といった内容が殆どだった。2022 年 2 月 5 日現在で会員数 200 名。

③ 他団体との連携・協力について

i 高山植物ネットワーク コロナ禍のためオンラインによる開催 (横山会長、佐藤出席)

環境道民会議 コロナ禍のため紙面による意見募集

ii 講師派遣依頼 今年度は無し

(2) 総務

① 懇親会は、昨年に引き続きコロナ禍のため中止とした。

② 編集部の依頼により会報の宛名ラベルの作成に協力した。

(3) 広報

① 「観察会の予定表」の配架と情報提供

・配架場所 各地区の自然センターなどに設置。また、観察会で参加者に配布した。

・情報提供 自然ウォッチングセンターのホームページへ掲載された。(観察部)

(4) 会計

3 年間未納者の取り扱い報告について、昨年の該当者は 12 名であったが、今年度はそのまま会員を継続した状態となっており、次年度改めて整理して対応を進めたい。

2022 年度事業計画(案)

1 観察部所管事項

(1) 観察会について

今年度の観察会実施計画は別表の「2022 年度自然観察会の予定表」の通りであり、「夏休み親子自然観会」を除き 36 開催が予定されている。今回掲載以外にも企画があれば、できる限りバックアップするので観察部（山形）へ連絡をお願いする。各観察会連絡担当者の方は、一般参加者名簿、指導員用名簿及び観察会予定表など、必要枚数を観察部山形までご連絡のこと。尚、各観察会で行う下見は、会員同士の交流と研修の場ともなるので有効に活用していただきたい。

昨年は、コロナ禍における観察会実施の留意点について提示したが、今年度は次のようにする。

新型コロナウイルス感染症の影響も 3 年目に入り、観察会における留意点についても理解が進んできたものと考え。今年度の観察会への対応については、感染状況を考慮したうえで、催行又は中止の決定は各観察会担当者の判断に一任する事とする。中止の際の連絡は、観察部山形までお願いする。

(2) 実施報告・会計について

①観察会の報告書は観察部（山形）へ送付のこと。また、観察会の活動写真を数枚程度必ず送るようお願いする。写真に参加者が含まれる場合は事前に承認を得るようにお願いする。寄せられた報告書・写真は会報またはホームページに掲載されることがあるので了承されたい。併せて、会主催の総会、道庁・植物園観察会、各研修会の報告と写真の提出も宜しくお願いする。尚、観察部会計は、会計処理の円滑化を図るため事務局会計に移行することとする。

②保険料などを現金で振り込む場合は観察部会計へ直接送付のこと。

ゆうちょの振替口座への振り込みを利用する方は、会計へ申し出ること。印字済みの振込用紙（振込取扱票）をお渡す。

※ゆうちょ振替口座番号：2770-9-34461 加入者名：北海道自然観察協議会観察保険料

参加者名簿と一人当たり 50 円の保険料を協議会へ送付のこと。但し、1泊2日以降は該当しない。

(3) 傷害保険について

観察会参加者の名簿が基本的となる。名簿の記入後から保険の対象となり、帰宅まで（帰宅経路を大幅に外れない範囲で）有効である。また、指導員の車に乗せて、観察場所を廻る場合でも集合時に名簿の記載があり観察会の参加者であることが分かれば保険の対象となる。

事故が起きた場合は、速やかに適切な処理を行った後に、下記の保険代理店の担当者に連絡し、事務局へ連絡をお願いする。

保険会社代理店：ケイティエス 本間 茂 電話 011-873-2655 日曜、祝日休業
普通傷害保険（エース損害保険株式会社）死亡保険：600 万円、入院保険金額：
5,000 円（180 日以内）日額通院保険金額：2,500 円（90 日以内）

2 研修部所管事項

(1) 全道研修会（研修部が企画し現地の指導員と連携しながら運営する研修会）

日 時 6 月 10 日（金）～12 日（日） 2 泊 3 日

場 所 ポロト自然休養林（白老）、大沼国定公園（七飯）、土橋自然観察教育林（厚沢部）、歌オブナ林（黒松内）

内 容 「原始性に富んだポロトの森、駒ヶ岳を望む湖 沼の自然、歴史あるヒバやブナの森を尋ねる研修会」

(2) フォローアップ研修会（研修部が企画し指導員の力量向上を図る実践的研修会）

日 時 8 月 20 日（土）

場 所 余市水産博物館周辺

内 容 「ゼロから始める身近な自然観察会」 積丹半島の歴史ある余市町の豊かな自然にふれ、自然観察会を始めるポイントを学び合う研修会。

今後の予定

	全道研修会	F-UP 研修会	備考
2022	道南ブロック	指導員講習会受講者他対象	指導員講習会実施
2023	準備	スキルアップ研修（全会員対象）	※
2024	未定	指導員講習会受講者他対象	指導員講習会実施

3 編集部所管事項

- (1) 会報発行について
会報「自然観察」は 137 号 (6/15)、138 号 (10/15)、139 号 (3/15)、年 3 回発行予定。
事務局ほか各部などの原稿の最終締め切りは発行日の 45 日前とする。
- (2) ホームページの運営について
依頼された内容は速やかにアップし、会員へホットな情報を届けるように心がける。

4 実行委員会事項

- (1) NACS-J 自然観察指導員講習会北海道 2022 の実施
日 時 6 月 18 日 (土) ~ 6 月 19 日 (日)
場 所 北海道青少年会館コンパス (南区真駒内柏丘)
内 容 北海道自然観察協議会と NACS-J の共催で、所定の講義及び野外実習を履修して自然観察指導員の資格を得る。尚、講習会の講義及び野外実習は従前どおり実施することとしているが、コロナ禍の状況によりオンラインの導入など実施形式に変更を余儀なくされることも想定される。
実行委員長 横山武彦会長
- (2) 夏休み親子自然観察会
日 時 7 月 31 日 (日)
場 所 札幌市北方自然教育園
内 容 森と水辺フィールドにおける自然観察と生き物採集とスケッチ等
実行委員長 三澤英一理事

5 事務局所管事項

- (1) 事務局長
 - ① 各種会議等の円滑な運営
 - i 理事会について
 - ・ 6/4(土)、8/27(土)、10/22(土)、12/10(土)、2/4(土)、4/1(土) の年 6 回開催予定。
 - ・ 理事会前の三役の打ち合わせ会議を遅滞なく行う。
 - ii 総会について (省略)
 - iii 講演会について (総会後に同会場にて開催)
講演者 山本 牧氏
演 題 「里に近づくヒグマ~その理由と対策~」
 - ② 入退会者の受付と会員名簿の整理は会計と連携をしつつ進める。
 - ③ 他団体との連携・協力について (昨年に引き続き、連携を図る)
 - ・ 北海道/環境財団(北海道地球温暖化防止活動推進センター)
 - ・ 北海道/環境道民会議(北海道環境生活部環境政策課環境企画グループ)
 - ・ 札幌市/環境局(北海道環境生活部環境局)
 - ・ 高山植物保護ネットワーク(さっぽろ自然調査館内)
 - ・ 全国の自然観察指導員連絡会・関係団体への会報送付
 - ④ 40 周年記念事業 (2025) の積立金額について
昨年度、積立金額については今後、会の収支決算の状況も考慮しながら会計と相談しながら進めることになっていたが、コロナ禍のために収支の見通しが立たないのが現状であり、決算を精査して計上できる金額を提案したい。
 - ⑤ 会員名簿の作成の手順について
昨年度はコロナ禍のために自然観察指導員講習会が中止となり、新会員も含めた名簿作成ができなかったため、今年度、改めて講習会実施後に作成作業を進める。
 - ・ 名簿作成にかかわる個人情報掲載の確認の文書を通知する。
 - ・ その際、通知漏れが無いように会報への掲載と文書同封など複数回通知する。
 - ・ 名簿への掲載を希望しない場合や住所等の変更があれば、その内容を担当者へ連絡するよう周知する。
 - ・ 以前に名簿掲載意思確認の返信用の葉書を同封したことがあったが、戻って来ない例が多数出て、意思確認としては不適當であったことから、返信用の葉書などの対応は不要としたい。
 - ・ 事務局が取りまとめ作成を行い、編集部が印刷発注する。

⑥事務局業務のスリム化への取組推進

今後の会の継続のために、事務局サイドの業務を整理・分担して、できる限り負担を少なくする工夫をし、事務局（役員）のなり手が就任しやすい環境づくりに向けて、提案・実行して行く。

(2)総務・広報

- ①懇親会 総会終了後、年末の理事会終了後の開催は、昨年に引き続き中止とした。
- ②観察会予定表の設置や自然ウォッチングセンターの掲載などは担当者と連携して活動を進める。
- ③道民カレッジの連携講座の窓口

道民カレッジ連携講座・開設の流れ（希望する観察会担当者）

1 所定の申請書に記入し道民カレッジに提出（観察会の担当者）オンライン可

2 道民カレッジから単位数の報告などのメールが事務局へ来るので各担当者へ転送する。

3 観察会の実施

- ・観察会の始めに道民カレッジでの参加者の確認し、終了時に手帳にハンコを押す。
- ・ハンコは道民カレッジの承認印で、協議会に3個ある。観察会が終わったら事務局総務へ返還する。
- ・尚、遠距離などでハンコの受け渡しが難しい場合は、代わりにシールがある。道民カレッジ事務局へ要望すればデータが送られてくるので、「日付・講座名・単位数」を入力し、シール台紙に印刷の上ご使用する。

4 観察会終了後

所定の実施報告書を道民カレッジ事務局へ提出（観察会の担当者）オンライン可

※道民カレッジでは申し込みは随時行っていてホームページに掲載されるが、講座一覧の冊子に掲載されるためには期日に間に合うように申し込むとよい。

例 申込期日（前期4～9月分） 2月上旬必着（期日はHPなどで確認のこと）

※道民カレッジに団体として登録しているIDとPW（パスワード）は以下の通り。

北海道自然観察協議会 ID:Af(1MhT% PW:sizenkyo19%

(3)個人情報について

本協議会では、個人情報保護法の対象団体ではないが、保護法の趣旨に基づき、入手した個人情報は、観察活動の目的以外には利用しない。また、保有する個人データは適正に取扱い、第三者に提供することはない。会員各位は、個人情報の取り扱いには留意し、特に会員名簿は外部に流失しないようお願いします。

(4)講師派遣依頼について

団体などから観察会の要請があれば、事務局が窓口となり一括して指導員派遣の要請を受けていく。

(5)分野別ガイド・備品

①得意分野で、会員からの疑問や地域情報の問い合わせに対応していただける方々。また、分野別ガイドとしてご協力いただける方は、事務局へ連絡をお願いします。

分野	名前	電話	住所
水生昆虫、魚類	札幌市さけ科学館	011-582-7555	〒005-0017 札幌市南区真駒内公園 2-1
昆虫（甲虫）	堀 繁久	011-571-2146	〒005-0832 札幌市南区北の沢 2丁目 20-18
植物全般	与那覇モトコ	0133-74-7952	〒061-3211 石狩市花川北 1条 2丁目 148

②備品の管理状況

備品	数量	保管先
実体顕微鏡ニコンファールミニ	2台	横山武彦（江別市）☎011-387-4960
追い込網	2本	同上
大型旗(120×180)	1枚	山形誠一（札幌市）☎011-551-5481
ポール（折りたたみ式）	3本	同上
トリプルバグビューアー	3台	同上
シュレッダー	1台	佐藤修（札幌市）☎011-272-3038
小旗	3セット	鈴木ユカリ（札幌市）

(6) 会計

会計業務の所管事項に観察部会計を入れる。

『自然に遊ぶ ～子供の頃の遊び～』

村元健治・北海道自然観察協議会理事

はじめに

筆者は、このほど子供時代に自然を相手に体験した数々の遊びの思い出を綴った『自然に遊ぶ～子供の頃の遊びの思い出 100編～』と題した冊子を自費出版した。春夏秋冬に分けて小学校1年(昭和30年)～6年生(35年)までの6年間の様々な遊びを100編ほど取りまとめた。これらの遊びの中で圧倒的に多いのがタイトルにも記載されている戸外での自然を相手にした遊びだった。そうした遊びが多かったのは一つには、筆者が生まれた地域が、そもそも道内の中でも自然豊かな地域として定評がある道東根室管内の町(標津町)に生まれ育ったということ。もう一つは、我が国の高度経済成長が本格的に突入する前の時代だった故、開発も十分に進んでいないため自然がまだ色濃く残っていたという時代背景があったことなどもそれぞれ影響していたと思われる。そのような地域・時代背景の下では、子供達の主たる遊びというのは、身近な自然を相手にすることが当然というか、あるいは必然であったと云えよう。

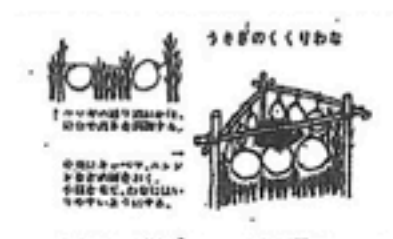
以上のような環境・時代を過ごした筆者の小学校の少年時代の遊びは、今日においても光り輝く「黄金の日々」であるだけでなく、筆者自身のその後の性格はもとより、生き様などにも大いに影響を与えてくれたのと認識している。言わばこれら遊び・体験が「心の原点・原風景」にもなっていると思っている。

北海道自然観察協議会の会員になってから行う自然観察会の開催などにおいても、この少年時代に体験した様々な経験を体験談として披露するなど大いに役立っているところでもある。

そこで、今回から出版冊子の中から、とくに自然を相手にした遊びの幾つかを選びすぐって書き改める形で紹介してゆくことしたい。

①ウサギ捕り～針金の罠で捕る2つの方法～

ウサギ捕りは子供の遊びに入るのかと言う疑問が起きるかもしれない。しかし、筆者が育った昭和30年代の根室管内においても見られた造林ブームに伴って発生した野兎を、大人・子供がワナで捕えるということに遊びも兼ねて夢中になったということがあったのだ。この造林ブームと云うのは、雑木林を伐採してカラマツ、トドマツなどの針葉樹林を植林するというもの。これにより野ねずみと野兎(エゾユキウサギ)が異状に繁殖するようになって被害が続出したため、営林署はウサギの両耳持参者に奨励金を出した。こうしたこともあって大人はもちろん、子供達の中にも小遣い欲しさにウサギ捕りをする者も少なからずいた。そんな訳で、筆者もその一人という訳でこの遊びを行った。ウサギ捕りの方法は以下の通りだ。



捕り方には、針金のワナを使って捕るというものだったが、これにはウサギの通り道に丸い針金のワナを仕掛けるというものと柴垣の囲みの中に餌を置いて誘い込んで捕るという2つの方法があった。前者は、たくさんのウサギたちが使う通り道にワナを仕掛けるとうもの。気を使う点は、ワナを避けないように、ワナの横を柴で覆うなど対策が必要になった。後者の捕り方は、円形状に柴垣を作って、その中央にニンジン、キャベツなどの餌を置いてウサギをおびき寄せて、中に入ろうとしたところを仕掛けたワナ(東西南北の4か所)で捕ろうというもの。

いずれのワナもウサギが針金の輪に気づかず、頭を突っ込んで首を締められて捕らえられる仕組みだった。問題はそのワナにうまく頭を入れてもらうようにするかということだった。ワナをかけたなら毎朝、胸を躍らせながら、獲物がかかっていないかスキーで行ったものだ。ワナの近くに来ると緊張が高まったものだが、残念ながら、筆者が掛けたワナにかかるようなのろまなウサギはほとんどいなかった。この遊びは、狩猟民そのものになったかのような遊びでもあった。

②冬の自転車乗り ～魔法にかけられた夢のようなファンタスティックな一時～

自転車というのは、北海道では昔も今も、基本的には雪の無い季節に乗るものとなっている。しかし、筆者は、その例外で子供の時、冬の堅雪と呼ばれる現象が出現する頃に、よく乗ったものだ。



この堅雪というのは、言うまでもなく季節的には3月の中旬頃に現れる気象現象だ。日中、太陽の陽射しも強くなって雪の表面が溶けた状態になるものの夜にはシバれることによって、雪が堅く締まることである。そうなりと子供はもちろん大人も上に乗っても足が埋もれない状態になる。このような現象は、この時期特有の昼夜の寒暖の差がもたらす賜物でもあるのだが、その堅雪状態になると、それまでの雪と違って足が埋まらないので何処でも行けるようになる。とくに夏の時期に行けない藪とか湿地あるいは道が無い原野などにも容易に行けることになる。とにかく、朝起きて堅雪の状態になっているなら、その状態が続いている限り、何処でも行けるのだった。

そこで筆者がしたのは、歩くというより自転車を引っ張り出してきて、その堅雪の上を乗り回して日頃、行けないような所に行くという遊びをよくしたものだ。雪の表面がアスファルトのよう堅く締まっているので、埋まる心配がないので、安心して様々な場所に行ったもの

だ。行く途中、林間を走り抜けたり、丘陵地を登ったりして行くのだが、あたかも羽でも生えたように何処でもスイスイと走り抜けることができた。また、道が無い所でも行けた上、その距離も最短コースをとることが出来たため、短時間で行けた。正に丘を越え、谷を越えて自転車は行くというものだった。何か魔法にかけられた夢のようなファンタスティックな時間だった。

ただ、この素晴らしい自然現象の欠点は、出現時間が短いということだった。早朝からせいぜい朝の8～9時頃までという儂(はかな)いものだった。

このことはイソップ物語のシンデレラ嬢のように、限られた時間内に戻らなければならないことを意味していた。その限られた時間内に戻れないとシンデレラの馬車が元のカボチャに戻ったように、堅雪が元の軟らかい状態になってしまえば自転車は乗れなくなってしまうのだった。

筆者も、あまりにも夢のような時間に我を忘れて夢中になってしまい、終わりの時間が来ていることに気が付かず、慌てて引き返すも途中で雪に埋まってしまうことが何度かあった。しかし、そうしたことはあったものの、鳥の羽が生えたように林間を走り抜けたり、なだらかな丘陵地をスイスイと駆け登ったりすることが出来るこの魅力的な堅雪の自転車乗りは、決して止めることはできなかった。あの興奮するファンタスティックな自転車乗り。地球温暖化を迎えた今日、自転車に乗れるような

堅雪に遭遇することは、なかなか難しいと思われるが、出来ればあの素晴らしい興奮をもう一度味わいたいものと願っている。

なお、本冊子の『自然に遊ぶ～子供野頃の遊びの思い出 100 編～』をご購入希望の方は、直接村元（電話 011-694-5907）まで、ご連絡ください（頒価 700 円、送料別）

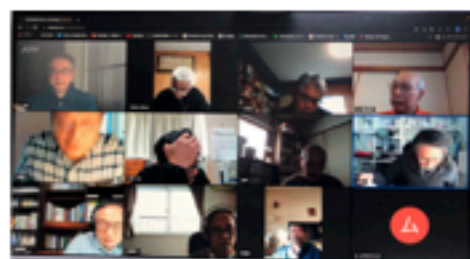
（カット・前田満・元林業試験場北海道支場研究員）

（編集後記）

第 4 回理事会が 12 月 11 日（土）に札幌市エルプラザで 10 人参加（オンライン参加 2 人）して開かれ、①全道研修会の開催 ②2022NACS-J 自然観察指導員講習会の開催 ③総会講演会の実施 ④役員改選等について、それぞれ協議しました。

その結果、①については明年度の 6 月 10～12 日にかけて、ポロト湖（白老町）、大沼国定公園等を視察対象に実施する。②については 6 月 18～19 日の 2 日間、札幌市南区真駒内の青少年コンパスで 25 人参集して行うものとする。コロナの感染状況も踏まえて、場合によりオンライン方式での実施も検討することになった。開催に向けて実行委員会を発足させて進めることにもなった。③については、総会公開講演として山本牧理事にヒグマについて報告してもらうことに決定した。④については明年殿役員改選に向けて役員選考委員会（4 人予定）を設置して進めることになった。（村元）

新型コロナの影響で集合による会合や観察会は依然として厳しい状況が続いています。リモートワークやオンライン会合が徐々に取り入れられてきている昨今、本年 2 月 5 日に当協議会でもオンライン打合せを行いました。利用したシステムは JitsiMeet（ジツィーミート）、利用無料で時間を気にすることなく、初回の利用にもかかわらず無事終了することができました。運用上のノウハウを蓄積することで、臨機応変にリアルとの併用ができそうです。（田守）



オンライン打合せ会の様子（2 月 5 日）



自然観察 2022 年 3 月 15 日/第 136 号 年 3 回発行
（会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれます）
発行 北海道自然観察協議会
編集 北海道自然観察協議会編集部